第４５号　2013年１１月３０日

カトリック仙台司教区・　カリタスジャパン
東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫　編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今年も残すところあと１ヶ月となりました。被災地では、多くの方が仮設住宅で３度目の年末年始を迎えようとしております。10月末、災害公営住宅の整備等に関する資料が復興庁から発表されましたが、平成25年度末の工事終了戸数は、岩手県で約690戸(11%)、宮城県で約1,540戸(10%)、福島県で約360戸(進捗率の発表なし)。仮設住宅を皆さんが出られるまでには、まだまだ時間がかかるようです。

さて、今回は、仙台滞日外国人支援センターで行われているブロックロザリオについてと、石巻ベースで行われたシニアビックショーについてご紹介します。また、カリタス米川ベースの活動が評価されて、宮城県社会福祉協議会から表彰を受けたことと、横浜雙葉学園から仙台教区へ車両が贈呈されましたので、ご報告させていただきます。

ブロックロザリオ２周年記念

仙台滞日外国人支援センター　　林　愛子

2年前の11月、いちばん初めのロザリオの祈りは津波に浸かったあとを直された仙台教区滞日外国人支援センターのアパートの一室で始まりました。そして、去年は陸前高田にある公民館で、今年は大船渡教会で25名ほどのパガサメンバーが集まり、11月9日、２周年記念を祝いました。震災後、仕事がなく、よく集まった仲間も、だんだんと仕事が見つかり普段の生活に戻ると、なかなかみんながそろって祈ることも難しくなってきました。しかし、今回は多くのメンバーとその子どもたち、兵庫や東京・仙台からのお客様も一緒に、ハルノコー神父様のギターの音色とともに歌から始まり、英語でのロザリオの祈りとタガログ語のミサが行われ、その後にはみんなの持ち寄ったフィリピン料理！お酢を使ってお肉を煮込んだアドボやデザートにはココナッツミルクの味がする米粉を使ったクチンタなどでおしゃべりをしながら楽しい時間を過ごしました。

現在、ブロックロザリオ（近隣や地域の家族などが集まって共にロザリオの祈りを行うこと）は大船渡と陸前高田で行われていて、毎週土曜日の午前中は大船渡のメンバーが教会で、月初めの土曜の午後、陸前高田のメンバーはマリア様の像を持って、メンバーの家を一軒ずつまわっていきます。出産が近い人、赤ちゃんが生まれた人、大事なテストがある時など、その時・その人のことを思って祈ります。このブロックロザリオ２周年記念の日はフィリピンの台風の被害にあったレイテ島の人々のために祈りました。依然、復興という長い道のりの中で、まだまだ癒しを必要としている彼女たちですが、今回フィリピンのレイテ島の人々の苦しみ・悲しみを自分のことのように感じ、その人々のために祈る気持ちは津波を経験した彼女たちだからこそいっそう強いものだと思います。

東日本大震災後、津波に家や車、持っているものを全て流され、つらく苦しい日々も仲間と集まり、祈り、支え合ってこられたことは、彼女たちにとってとても心強いことだったのではないでしょうか？いつもお祈りが終わったら、持ち寄ったお料理をみんなで食べます。食べ物の分かち合いだけでなく、タガログ語で自分の気持ちを話したり、仲間の話を聞いたり、心の分かち合いを行うことは本当に大切なことだと思います。また、マリア像を送ってくれたカトリック東京国際センター（CTIC）やロザリオをくださったたくさんの方々、会った人、会わなくても私たちのことを祈りを通して支えてくれている人々がいることを感じます。これからも私たちは一緒に祈る家族のような仲間と、祈りを通してつながっているすべての人たちとともに、復興に向かって歩んでいけたらいいな、と思います。

The family that prays together stays together
一緒に祈る家族はひとつになる。

関西熟年パワフルコメディ集団・発起塾
シニアビッグショー公演

カリタス石巻ベース　　シスター細谷　朋子

去る11月9日（土）、石巻ベース1Fオープンスペースで、関西熟年パワフルコメディ集団・発起塾のシニアビッグショーが開催されました。発起塾は、50歳以上100歳までの演劇未経験者を対象にしたミュージカル集団です。事前の打ち合わせもないままの受け入れだったため、不安がありましたが、12名のメンバーが手に大荷物（衣装・かつら・小道具等）を抱えて持ち込み、廊下で着替えることも、場所が狭くともこだわらずその場に合わせて動くことのできるアマチュアの力強さを感じました。

住民の皆さんが待ちきれず早めに集まったので、退屈しないように黒子役が皆の知っている歌を一緒に歌い踊り、公演が始まる前から盛り上がっていました。最初は平均年齢65歳位（?）のAKB48がミニスカートで、激しい踊りもなんのその軽快に踊り、会場は爆笑の嵐でした。懐かしいメドレーから最近の歌まで次から次へ衣装を替え、その早変わりにも笑いが途切れることがありませんでした。

「シンデレラ」の王子様役は70代位の方でかつらをつけて登場。観客の中からシンデレラが選ばれ、たまたま一番前に座っていた方が前身頃だけのドレスに金髪のかつらをつけて変身して登場したとき、

笑いは最高潮に達していました。またシンデレラのガラスの靴は彼女がはいていたスニーカーというおまけつきです。会場にいる全員で踊ったSMAP「世界に一つだけの花」は座っても踊れるような振付で、温かい配慮がされていました。踊ることが恥ずかしい方も皆と一緒だったらできるし、ともに笑い泣くことのできた時間でした。

最後に40年後のAKB48を彷彿させる姿で「会いたかった」をみんなで「イェ～!」と掛け声をかけ、お腹がよじれるくらい笑ころげ、講演は終わりました。観客も楽しみましたし、スタッフも日頃の疲れが飛んでいったようなひと時でした。

発起塾は小グループに分かれて被災地の仮設や会場で、笑って元気になってもらおうと今回の公演が企画されたとのこと。正式なダンスや歌唱を習いしっかり基礎を身につけ、なによりも観客の目線を大事にしていることを感じました。楽しい演出も土台があるからこそ生きてくるのでしょう。自己満足に止まらず、相手の目線感じ方を大事にすることも、私たちベーススタッフにも共通するものだし、関わり方の違いはあれ住民さんに寄り添う心は同じものだと思いました。

宮城県社会福祉協議会から表彰を受けました

仙台教区サポートセンター　シスター長谷川 昌子

11月5日（火）午後1時30分から、仙台サンプラザホールで、「第59回 宮城県社会福祉大会」が開催されました。その中で、米川（南三陸）ベースの活動が評価され、カリタスジャパンとして宮城県社会福祉協議会会長から、「東日本大震災に多大なる支援をされ その復興に大きく貢献されました その功績はまことに顕著であります」と表彰を受けました。

年に１度の社会福祉関係者の表彰式とあって、サンプラザホールの１階は、表彰者でいっぱいでした。この方々を見たとき、どれほど多くの団体や個人の方々が社会の中で福祉活動に従事し、社会を支えておられるかを痛感しました。

震災当初、仙台教区では、壊滅的な津波被害を受けた南三陸の復興支援を考えましたが、南三陸に教会はありません。そこで、いちばん近くの米川教会から、南三陸へ通って奉仕しようと考え、2011年4月30日、米川（南三陸）ベースが開設され、翌５月1日から、カトリック米川教会と司祭館をお借りして活動を開始しました。

代表として表彰式に出席した
米川ベース 千葉道生ベース長

しかし、小さな教会、手狭な司祭館では、南三陸町にあれだけ広大な活動の場があるにもかかわらず、ボランティアの方々を受け入れるには、少人数しか泊められないという問題がありました。どうしようかとベース長が悩んでいるとき、米川の区長さんの、「本当は私たちがボランティアに行かなければならないのに、それぞれが病気だとかいろいろの理由で行けないのを心苦しく思っています。でも、何か私たちでできることがあれば、言ってください」という言葉に励まされて、「実は、ベースになる家を探しているのですが…」と切り出すと、「あぁ、集会所を使っていいよ」とのこと。トントン拍子に話がまとまり、現在の「米川一区集会所」がベースになりました。

以来、地域の中にすっかり溶け込み、地域の運動会、お祭りなどのイベントにも参加させていただき、地域の一員としてなくてはならない存在になりました。

米川は宮城県登米市にあり、津波の被害は受けていません。緑豊かな農村地帯です。結果的にこの決断は、ふさわしいものだったということがわかってきました。津波ですべてが流され、一面泥と瓦礫の中で活動するボランティアさんたちが、非日常の異常な光景から米川の日常を感じさせる光景を目にして、自分を取り戻すことができると感じられたことです。

米川（南三陸）ベースでは、この２年７ヶ月、多くのボランティアの皆さまのご協力により、瓦礫の撤去・お茶っこサロン・漁業支援・

仮設住宅の方と紅葉狩り

漁業支援

お祭りのお手伝い

米川(南三陸)ベースの活動の様子

お茶っこ

瓦礫撤去

農業支援

農業支援・障害児童支援などの活動を続けることができました。

2013年10月末までに、米川（南三陸）ベースのボランティア活動に関わってくださった方々は、延べ約２,８００名に上ります。

また、千葉ベース長始め米川ベーススタッフが、活動を通じて南三陸町社会福祉協議会と信頼関係を築き上げたことで、カリタスジャパンとして南三陸町デイサービスセンター2ヶ所の新規開設を支援することも出来ました。

表彰を受けた千葉ベース長は、「他の皆さんは長年、地道に社会福祉活動をなさってきた方ばかりです。それに比べ、私たちは、２年半の活動で、このように表彰を受けるのは、ボランティアの方々の働きが認められたということだと思います。それに、これからもしっかりやってくださいね、という励ましで受けたのだと身を引き締めています。」と語っています。

新車贈呈式 横浜雙葉学園から仙台教区へ

11月27日(水)午後3時、横浜雙葉学園を代表し、校長・千葉拓司先生から、東日本大震災の支援復興活動に携わっている仙台教区に、新車トヨタハイエースが贈呈されました。

仙台教区を代表して平賀徹夫司教が、鍵を受け取り、その車を使用するカリタス米川（南三陸）ベースの千葉道生ベース長に鍵が渡されました。

今回の車の贈呈は、同学園がチャリティーコンサートを行うなどをして、父兄、同窓会などの方々のご協力によって実現したものです。